

第 12 回中部地区路面電車サミット 福井大会

FUKURAMで未来がふくらむ！



●撮影／鳥居



●関連記事 2 ページ～ 3 ページ



☆☆活動報告☆☆

10 月 19 日 えちぜん鉄道 10 周年記念事業
19～20 日 中部地区路面電車サミット福井大会
30 日 第 5 回 CFD 実行委員会
11 月 20 日 ROBA 11 月例会・理事会

☆☆今後の予定☆☆

11 月 30 日（土）～ 12 月 1 日（日）
終着駅サミット in 城端
12 月 18 日（水）ROBA 12 月例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

クルマよ、お世話になりました 米モーターリゼーションの歴史と未来

（著） ケイティ・アルヴォード

（訳） 持続可能な地域交通を考える会 堀添由紀

白水社 2900 円＋税

クルマを持った人が行動しようとしたとき、道路もある、税金・保険料も払ってある、追加はガソリン代ぐらいだと思えば、最も安価で快適な移動手段はどうしてもクルマとなる。しかし、クルマを買うときの大きな出費を乗り越えるには、相当な恋心にも似た「思想」が必要となる。

この本は、上岡直見さんの、「自動車にいくらかかっているか」という本に網羅された経済学的な視点の概要とともに、クルマの宣伝戦略、政府の公共交通政策など広い観点からクルマ社会の成立を解析して、社会的費用を踏まえた冷静な判断によるクルマ離れを推奨している。巻末の井坂洋士氏の解説「日本におけるモーターリゼーションの歴史と現在」もより理解を深めさせてくれる。10 年ほど前の原著だが、決して古さを感じさせない、クルマ社会を考える必読書と感じた。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

平成 25 年 11 月 12 日

一般財団法人地域環境研究所御中

特定非営利活動法人 ふくい路面電車とまちづくりの会
(ROBA)

会長 内田佳次

研究助成報告書 ～中部地区路面電車サミット福井大会実施報告～

(概要)

平成 25 年 10 月 19～20 日 第 12 回となる中部地区路面電車サミットを福井市で開催いたしました。このサミットは中部地区で路面電車を活かしたまちづくりを進めている市民団体が中心となり 2002 年から毎年開催している啓発活動です。なお、近年は路面電車が走るまちだけに止まらず地方鉄道も含めた活動団体も加わり、利用者数が減少し経営的にも苦しい状況にある鉄軌道の活性化に資する議論や具体的な活動を展開しています。

一般公開の講演の開会に先立ちまして、中部地区の路面電車愛好支援団体及び中部地区外の鉄道関係の活動者を含めた会議を持っています。目的は各地における地域公共交通の現状と問題や各団体の活動を報告し合うものです。情報交換を行う中で、活動の手法や行政・交通事業者との連携、市民への啓発の仕方などについて意見交換を行っています。

この福井大会においては、地域公共交通活性化再生法による鉄道事業再構築実施計画を着実に遂行し、FUKURAM の運行も相まって今まさに再生に相応しい経営を行っている福井鉄道と、開業 10 周年を迎えてこれからの 10 年を見据えた事業計画を立てているえちぜん鉄道の現状を伝えることと、この 2 事業者による相互乗入という新しい事業展開が効果的に進展することを願って開催いたしました。中部地区路面電車サミットの主催は中部地区路面電車愛好支援団体協議会ではありますが、特定非営利活動法人ふくい路面電車とまちづくりの会 (ROBA) が主体的にかかわり、市民と行政と交通事業者を繋ぐという役割を担いました。 入場者数は約 100 名

中部地区路面電車愛好支援団体会議



(内容)

基調講演では、福井鉄道村田社長による「福井鉄道の現状とこれからの取組」と題した講演をしていただきました。福井鉄道の現状と再構築事業の内容、現在取り組んでいる企画切符やバスとの連携、さらにはえちぜん鉄道との相互乗入の概要に関する内容です。また、「安全」を第一に考え運行をしているが、「安全」に対する施策に多大なコストがかかる。

鼎談の様子



福井鉄道は鉄道部門とバス部門をもっているため鉄道とバスを活かした連携施策展開が可能なことが特徴であるとのことでした。

つぎにサミット参加団体及び来場の市民に理解を深めていただくためにコーディネーターとして川上福井大学大学院教授をお迎えし、村田福井鉄道社長、伊東えちぜん鉄道取締役、越智福井市特命幹の3人による鼎談を行いました。主な発言としては、村田社長からは福井は他所の地域と比べて、電車を残さなければならないという意識が強いと思う、そのためにも安心安全な鉄道として利便性を高め、バスとの連携を確保しながら親しめる鉄道にしたい。FUKURAMの運行が良い起爆剤となっている。伊東取締役は相互乗入には困難も多いが是非実現したい。これからの10年計画では電車利用が便利という価値から電車はカッコいいという付加価値の創造が必要、駅を重視して駅からのまちづくりを展開したい。すでに勝山駅では改修も終わりさらに親しめる駅としていきたい。越智特命幹は福井市の都市交通戦略の基本方針・施策パッケージ・コアプロジェクトの考え方を説明後、「福井版 LRT プロジェクト」という言葉を掲げ、福井に相応しい LRT を構築すべく先導施策を展開する。さらには「福井のまちが変わる！」という実感をもってもらうためにも PR が必要とのことでした。

（課題）

この中部地区路面電車サミットは、地域課題を掘り起し行政や交通事業者とも連携して市民への啓発や行政の都市交通施策の後押し役も考えています。この役割でいえば福井市周辺市域は一体感もありうまく連携がとれていると思料します。また、中部地区の多くの地域は1市の中の路線であることが多く1市で完結できます。福井県では福井鉄道もえちぜん鉄道も路線は多くの市町を結んでいるため、連携は難航するはずであるが…、過去に運行停止の苦い経験をしていることがこの困難な状況でも連携が取れる要因かと思えます。

いっぽう、市民への啓発はどうかといえまだ不十分であろう。クルマに偏った移動に慣れきった生活は、頭の中でわかっているにもかかわらず具体的な行動はクルマに頼ってしまうのが現状です。移動の困難さが徐々に改善され、クルマを利用しなくても移動可能な都市交通環境を早急に構築していくことが重要です。当会は「のりのりマップ」を中心にして、現状の路線でもクルマなしで移動が可能であることや、せめて休日の移動には公共交通の利用を市民に提案しています。当会が毎年開催しているカーフリーデーや福井県が推進しているカーセーブデー、福井市の中心市街地で行われている各種まちなかイベントなどの施策がクルマから公共交通利用の増加につながることを期待しています。



村田社長の講演の様子



作／漆崙 耕次

照ちゃんの気になる風景 part37



今年の夏の夕方。自転車に乗って、バス停までの帰路。川のほとりで動くものを発見。よくよく見たら、一所懸命川面を見ている猫ではあーりませんか。「何をそんなに一生懸命見ているの？」と質問したのですが返事がないので（あたりまえか！）自転車から降り私も猫と同じように川面をじっと観察。すると川の中にはたくさんのフナの群れ。川に飛び込みフナを捕まえたなら、スクープ写真で福井新聞に投稿するのに。

しかし、よくよく考えて見るとこの猫はどこからこの穴に入ったのだろうか。「君はどこからその穴に入ったの？」と聞いたのですがやはり返事がなく（当たり前田のクラッカー！古ー）穴の反対側に行ってみると納得。耕作放棄で草村になっている田んぼがあり、この穴は昔田んぼの水を取り入れたものでした。

バスの時刻がせまっていたので「ではまたね！」と声をかけ帰路につきました。（その後、時々この猫を見かけます。ノラ猫ではないようです）

編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

「今年は還暦の年ですが、9月中旬から体調不順が続いています。すこしお休みしなさいと言う神様のお告げなのでしょうか。」

林(変集長)

「最近の休みは、自宅の改築でソバ祭りもカニ祭りも我慢です。グスン！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>